

目 次

1. 日本労働社会学会第 31 期第 5 回幹事会 (2019.9.7) 議事録
2. 日本労働社会学会第 31 期第 6 回幹事会 (2019.11.1) 議事録
3. 社会学系コンソーシアム シンポジウムのご案内

★2020 年度年会費納入のお願い★

★住所・メールアドレス変更通知のお願い★

昨年度は『通信』の発行が滞ってしまい、会員の皆様にはご不便、ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

1. 日本労働社会学会第 31 期第 5 回幹事会 議事録

2019 年 9 月 7 日 (土) 13:30~15:30

専修大学神田校舎 1 号館 4 階 ゼミ 44 教室

出席者：中園、江頭、萩原、宮下、兵頭、小尾、谷川、中根、高島、大野、柴田、伊藤、
中畠、井草、橋本 (開催校)

I 第 31 回大会 (11 月 1 日~3 日、早稲田大学所沢キャンパス) について

1. 大会日程について、11 月 1 日 (金) 工場見学、11 月 2 日 (土) 自由論題報告、11 月 3 日 (日) シンポジウムという日程が確認された。

2. 開催校より

・4 教室 (100 人 2 教室、40 人 2 教室) を抑えたこと、懇親会は生協を使うことが報告された。

・11 月 2 日、3 日は早稲田祭で学生の登校がなく、バスが減便になっているため、バスの時刻に合わせてスケジュールを組む必要があること、近隣にコンビニエンスストアもないことから昼食やコピーの対応が難しいことが報告された。そのため、幹事会から弁当の申し込みなど返信ハガキの投函を呼びかけることを ML で発信することが確認された (すでに ML 対応済：中園追記)。

3. シンポジウム

・萩原委員より資料に基づきシンポジウムの全体について報告がなされた。その後、報告時間 45 分に関する時間配分について議論がなされ、報告時間を 40 分、質問については司会

の裁量で事実確認のみとし、事前に質問用紙を配布して、午前中に回収することとした。

・報告の順番については、プレシンポジウムの状況を見て検討すること、プログラム発送までに各シンポジストのタイトルを確定しておくことが確認された。

4. 工場見学

・幹事長より、(株)日経東京製作センター東雲工場（東京都江東区）の集合場所等についての報告があった。

5. 自由論題報告

・研究活動委員会から全体シンポジウムおよびプログラム案が提示され、了承された。

・自由論題への申し込み（エントリー8月20日締切、要旨提出8月31日）は計10件。締切日後のエントリー1件、要旨のみの提出1件があったが、これらの自由論題へのエントリーは受け付けなかった旨の報告があった。

6. 学会奨励賞について

研究活動委員会から7月24日に締め切り、候補者作として「著書の部」は該当なし、「論文の部」が4件であったことが報告された。「論文の部」における推薦の受付に関し、以下の経緯および対応、検討課題を確認した。

まず、当該の推薦論文については、「著書の部」について対象候補作がなかったことから、さらに推薦を呼びかけるとともに、学会奨励賞担当幹事による会員著作の検索作業を進めるために、当初の推薦締め切り期間を延長した。すると、「論文の部」において、表彰制度を持つ他学会の学会誌掲載論文の推薦があった。その推薦の受付に関し、これまでの受付実績では前例がないこと、候補対象とすべき論文掲載誌の解釈が会員間で一致していないこと、特に若い学会員の間で「他学会誌は対象外」等の認識があること等に加え、何が奨励賞対象となる「論文」であるかを明記した運用細則等の文書もなく、明確な判断の基準がない状況にあることから、当該推薦については受けつけないこととした。

※なお、本件については、幹事会の後に関係者に事情を了解して頂いた。

しかしながら、奨励賞、特に「論文の部」のあり方については、詳細な規定もなく、慣例に依拠してきたことから、来年度に議論することとした。

なお、奨励賞選定に関する「中間コメント」が選考委員会から提出されたが、受賞判断について意見を求めるコメントの提出は異例であり、また幹事会は受賞作の選定作業それ自体に介入しないことから、この点については報告を受けるだけにとどめた。

II 委員会報告・協議

1 『年報』編集委員会

・投稿論文2本、教育実践報告1本の掲載および10月発行予定であることが報告された。

・非会員のシンポジストに対する謝金等支出の取り扱いについて、原稿執筆を含めて従来通り（謝金 1 万円および旅費等）とし、原稿料は出さないことを決定した。

2 『労働社会学研究』（ジャーナル）編集委員会

・5本の投稿があり、そのうち1本は掲載が決定したこと、査読・再査読中が3本あることが報告された。

3 研究活動委員会

・学会奨励賞の規程改正案（2点）が提示され、総会提案が了承された。年齢制限（研究経歴考慮）については、「修士取得後 16 年未満」とする。入会申込書の体裁等の変更が議論された。奨励賞作品の刊行期間は年報の書評に合わせて1月1日～12月31日とする。

※すでに入会している会員について、「修士取得後 16 年未満」を満たすかどうかについての遡求は困難であることが判明した。

4 関西部会

・6月15日（土）に開催し、16名が参加した。

5 社会学系コンソーシアム担当

特になし

6 社会政策関連学会協議会担当

特になし

7 学会ホームページ担当

・やや情報のHPへのUPが遅れている。

9 会計担当

・プレシンポジウムについては交通費のみを支払う。

・学会費に関して、8月中旬にワールドミーティングから振込用紙を送付したが、9月6日（金）時点での学会費未納者が75名いる。

10 事務局

(1) 第32回大会の開催校について

伊藤会員が所属する大阪経済学大学で開催することが決定した。

(2) その他

統計不正問題に対する声明について

11 その他

・J-Stage 掲載に関してかかる費用については10年定期預金を解約する。

III 入会、退会、会費減免申請（回覧資料参照）

入会希望者：西尾力

退会希望者：加藤喜久子

以上

2. 日本労働社会学会第31期第6回幹事会 議事録

2019年11月1日(金) 13:30~15:30

専修大学神田校舎7号館8階、781教室

出席者：中園、小村、萩原、宮下、小尾、中根、高島、大野、中畠

1. 第31回大会(2019年11月1~3日)について

1) 工場見学について

日経東京製作センターでの工場見学には、8名が参加した。

2) 研究活動委員会

予定通り、自由論題報告、シンポジウムの準備が進んでいることが報告された。

3) 中園代表幹事より、開催校ではつつがなく準備が進んでいると報告された。

2. 総会議事について

1) 議長について

参加者の中から、遠藤会員に依頼することとした。

2) 報告と審議事項について

①『日本労働社会学会年報』編集委員会

予定通り、10月に第29号を刊行されたことが報告された。

②『労働社会学研究』(ジャーナル)編集委員会

高島幹事より査読が遅れ、現在結果待ちである旨報告された。

③研究活動委員会

- ・11月3日のシンポの準備は順調に進んでいる旨報告された。
- ・自由論題の申し込みで複数のトラブルがあり、来年度エントリー方法を変更するための議論を始める旨報告された。
- ・総会では活動報告として、本大会のシンポジウム、研究例会(3月、7月)について報告する。
- ・奨励賞論文の部では、選考委員会より『労働社会学研究』20巻に掲載された近間由幸氏の「衣料品チェーンストアA社における非接客労働の重要性:-アルバイト店舗販売員の参与観察を通じた事例研究-」を表彰することとした旨報告された。
- ・審議事項として、奨励賞の規定改定(案)を出す。第一に、第2条の受賞資格者について「年齢制限を考慮」を削除し、「修士号取得後16年未満」とする、第二に審査対象の業績公刊期間を変更する。具体的には、4月1日~翌年3月31日から、編集委員会の書評対象リスト化と合わせ、前年1月1日~12月31日までとする。
- ・名簿の更新の際に新たな項目(生年月日)、修士取得年を加えられるか、事務局より委託業者に問い合わせることとした。

④関西部会：特に報告なし。

⑤社会学系コンソーシアム担当：特に報告なし。

⑥社会政策関連学会協議会

6月29日に若手研究者向けのフォーラム開催を報告した旨を報告する。

⑦学会HP担当：特に報告なし。

⑧デジタル化担当

- ・担当者がケガのため、作業は中断している。現在、年報は、1～5号、27号の掲載が完了。
なお、J-stage にバックナンバー掲載に必要な経費を基金から支出したいと考えている。
その点について、総会で諮る。
- ・予備費・繰越金もあるなかで、なぜ基金から支出するのか。基金については、使途が決まっているため、今回は年報がより広く読まれるために、2020年度は「年報基金」から支出する。

⑨事務局

- ・学会自由論題エントリー方法の見直しについて代表幹事より提案を行う。
- ・学会奨励賞（論文の部）募集についての代表幹事より提案を行う。

⑩会計決算報告、予算案

決算報告：支出の詳細については、別紙報告書の通り。

予算案：J-stage に年報バックナンバー掲載にかかる外注費を「年報基金」より20万円支出する。

- ・年報の書評用図書費およびリスト作成にかかるアルバイト代を5万円計上する。
- ・来年度は東京オリンピックがあるため、東京以外での幹事会開催も視野に入れ、幹事会等旅費を30万円増額した。

⑪学会奨励賞について

- ・年報に、学会奨励賞受賞作品を掲載してはどうかという提案があり、選考委員会から受賞理由と合わせて、次号より掲載することになった。受賞者のコメントは掲載しない。
総会当日は、選考委員長から選考理由についての説明を行い、代表幹事より賞状と副賞を手渡す。

なお、今回の選考過程でいくつか課題が見つかったため、論文の部は、1年間をかけて検討し、既定の整備を行うため、次年度は学会奨励賞の募集を停止する。

⑫次回大会開催校について

大阪経済大学で開催することになった。

3. 入会、退会、会費減免措置の承認【回覧資料】

退会：1名（小島和江会員）

会費減免：（シニア）1名、（常勤職にない会員）1名 が承認された。

4. 来年度幹事会日程について

2019年12月7日、2020年3月7日、7月4日、9月5日、大会前日

※3月と7月は幹事会後に研究例会、9月は大会プレシンポを開催する。

以上

3. 社会学系コンソーシアム シンポジウムのご案内

社会学系コンソーシアムより下記のシンポジウムのご案内が来ておりますので、興味のある方はご参加ください。

社会学系コンソーシアム・日本学術会議 第12回シンポジウム

テーマ：現代日本の「働く仕組み」-社会学からのアプローチ

場 所：日本学術会議講堂（東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5番出口徒歩1分）

日 時：2020年1月11日(土)13:30～16:30

<http://www.socconso.com/191111-sympo12.pdf>

★日本労働社会学会事務局（第32期）★

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2 日本看護協会 労働政策部

小村 由香（おむら ゆか） 気付

TEL: 03-5778-8553（直通）

FAX: 03-5778-8478

E-mail: yuka.omura@nurse.or.jp 学会HP: <http://www.jals.jp/>

★2020年度年会費納入のお願い★

学会費の納入は下記口座までお願いします。

【郵便振替口座】口座番号：00150-1-85076 加入者名：日本労働社会学会

年会費 学生・院生会員：6,000円 一般会員：10,000円

会費減免制度については、下記URLをご参照ください。

<http://www.jals.jp/discount/>

★住所・メールアドレス変更通知のお願い★

住所変更とメールアドレス変更した場合には、必ず事務局に連絡をお願いします。

以 上
